

「学ぼうとする構えで入る」

令和8年が始まり、もう1月が終わります。遅くなりましたが、昨年中は大変お世話になりました。今年もよろしくお願ひします。1, 2学期と比べ、3か月間という短い3学期が始まり、学年のまとめとして使えるのも早2か月を切ります。子供たちにとっても学校としても大切にしていかなければならない時間を、どのように過ごせばよいか、改めて考えさせられます。

自分が得意であるか否か、興味をもっているかどうかとは別に、何かを学ぼうとする構えをもっているかで、その時間で得られるものに大きな差が生じてくるように思います。

先月行われた、習字の先生を招いての書初め指導の折に、子供たちが筆を動かす様子を見ながら、この子供たちは言われたことをやっているのか、何かを身に付けようとしているのかと考えていました。言われたことや指導されたことを、そのまましっかりできるようにならなければならないと言いたいではありません。先生が言っていることはどういうことかを試してみようとする気持ちが働き、できる自分かどうかを確かめてみる、やってみて先生の言うことができたならそのよさに納得する、そんな心の動きが自分の中に生じるかがとても大切だと思います。どうせやるなら、精一杯やってみて、一つでも二つでも自分ができることを増やしていこうとする貪欲な考え方が、常に心の中にあればよいなと思いました。

そのことは何も勉強のときだけではなく、その子の、その人の生き方にもつながる構えだと思うのです。何か一つ、自分が好きでとことん打ち込めるものをもっている子供は、その得意なことや好きなことだけに留まらず、生活全体にその姿勢を伸ばしていきます。現に若くしてトップアスリートとなり、世界へ出て活躍しているような若者は、自分はスポーツをがんばっているから学校の勉強はおろそかにしてもよいとは思わないようです。車での移動中や、ほんのわずかな時間をやりくりして学校の勉強に向かいます。きっと目の前にあることから逃げずにしっかり取り組もうとするエネルギーが次から次へと湧いてくるのですね。

たとえ1年に1度の書初め指導の機会でも、何か一つ学んでやろうとその場に来るのか、何となく時間をやり過ごせばいいと思っているかでは、積み重なれば身に付くものが違って来るように思います。これに限らず、いろいろな場面で「何か一つでもいいから自分のものにするよ」と子供に声をかけ、臨ませてやりたいと思います。

早いもので、令和7年度もあと2か月で終わりになります。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、いつもご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。まだまだ寒い日が続きます。十分気を付けてお過ごしください。

(校長 村杉 一也)